

社団法人 石油学会

平成15年度 事業報告

1. 庶務事項

(1) 役員の登記手続き

平成15年5月20日就任の新役員の登記手続きは6月に終了した。

2. 会員数の状況

平成15年度末(平成16年3月31日)と前年度末の会員数を比較すると次表のとおりである。

項目 会員別	平成15年 3月31日現在	平成15年度会員数の増減			平成16年 3月31日現在
		増	減	増または減	
名誉会員	24	1	2	1	23
普通会員	3510	362	305	57	3567
学生会員	202	138	100	38	240
小計	3736	501	407	94	3830
維持会員					
1級	22	0	0	0	22
2級	13	0	3	3	10
3級	46	1	0	1	47
4級	34	0	4	4	30
5級	198	4	16	12	186
小計	313	5	23	18	295
公共会員	36	0	2	2	34
総合計	4085	506	432	74	4159

3. 会務の会合

平成15年度の各種会合数は次表のとおりである。

会 合 名	数	会 合 名	数
通 常 総 会	1	資 源 部 会 (含幹事会)	4
評 議 員 会	1	精 製 部 会	24
理 事 会	4	石 油 化 学 部 会 (含勉強会)	9
顧 問 会	1	製 品 部 会	2
運 営 会 議	5	討 論 会 準 備 委 員 会	2
財 務 委 員 会	1	ガソリン分科会	13
役員等候補者選定委員会	1	燃料油分科会	18
職員人事委員会	0	潤滑油分科会	25
支 部 長 会 議	1	絶縁油分科会	15
会員拡大委員会	4	アスファルト分科会	5
広 報 委 員 会	2	試験分析分科会	7
情報専門委員会	5	装置部会	15
ペトロテック編集委員会	11	設備維持規格委員会(含分科会)	42
Working Group 委員会	53	機器分科会	32
石油学会論文誌編集委員会	6	配管分科会	34
刊 行 委 員 会	1	設備保全分科会	11
研究・技術企画委員会(含小委員会)	3	計装分科会	35
研究助成委員会	1	電気分科会	21
国 際 委 員 会	0	保安分科会	3
表 彰 委 員 会	2	経営情報部会(含WG)	22
表彰推薦委員会	2	新エネルギー部会	4
表彰選考委員会(含小委員会)	8	溶接士検定委員会(含表彰)	2
石油・自動車技術懇談会	0	基準改訂小委員会(書面審議)	3
教 育 委 員 会	3	標準試料委員会	2
受託研究(事業)委員会	1	設備維持管理士認定委員会	7
次世代環境対応型石油燃料調査WG委員会	5		
海外協力分科会	4	合 計	483

4. 講演会、討論会、研究発表会ならびに見学会等の実施

月	日	曜	名 称	開催地	講演数	参加者
平成 15 年						
5	20	火	第 44 回通常総会、第 46 回年会 - 受賞講演、特別講演、懇親会	東京	8	142
	21	水	受賞講演、第 52 回研究発表会、JPIJS ポスターセッション		94	291
6	13	金	第 23 回絶縁油研究発表会、懇親会	京都	9	87
6	20	金	資源講演会「石油産業の新潮流と環境ビジネス」	東京	7	49
6	30	月	反応分離シンポジウム「実用に近づく膜反応分離技術を展望する」	東京	7	65
9	19	金	第 3 回 回転機研究討論会	東京	7	85
10	2	木	触媒シンポジウム 「石油 / 石油化学の未来を担うキーマン - 触媒技術からの視点 - 」	東京	5	42
10	17	金	精製講演会「環境対応型石油産業への脱皮」	東京	7	60
11	17	月	大阪大会	大阪	222	420
18	火	特別講演、第 33 回石油・石油化学討論会、懇親会				
19	水	見学会				
12	1 2	月 火	石油製品討論会 「次世代の環境調和型石油製品の開発動向とこれに対応する 評価技術」	東京	17	110
12	14 15	日 月	第 13 回日本 - サウジ合同セミナー	ダラン市	15	120
12	11 12	木 金	第 34 回装置研究討論会 「設備の信頼性と最適コストの追求」	東京	12	118
平成 16 年						
1	23	金	設備維持規格講習会	大阪	3	78
1	30	金	設備維持規格講習会	東京	3	88
2	13	金	第 29 回精製パネル討論会「SU、SD 時の環境対策と工程短縮・ H ₂ S、硫黄回収、排水処理、排煙脱硫・改質装置」	東京	3	123
2	19	木	第 4 回電気研究討論会「ケーブルのトラブル事例と運転中検査 技術」	東京	6	87
3	4	木	第 21 回計装研究討論会	東京	7	105

5. 研究助成

平成 15 年度より、石油、天然ガス、石油化学工業の発展と文化の興隆に資することを目的に、重質油対策技術研究組合、新燃料油開発技術研究組合、軽質留分新用途開発技術研究組合から寄付された野口記念賞基金を基に、満 40 歳未満の若手研究者への助成及び石油学会部会への研究・調査の助成制度を創設した。

第 1 回の助成は下記の通り、若手研究者 3 氏及び 1 部会に決定した。

横浜国立大学大学院工学研究院 助手 笠井 尚哉氏 助成額 70万円

沼津工業高等専門学校 講師 竹口 昌之氏 助成額 90万円

東北大学多元物質科学研究所 助手 山本 勝俊氏 助成額 90万円

石油化学部会 助成額 50万円

6. 会務部門

(1) 支部活動

北海道、東北、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の6支部があり、活動は次表の通りである。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道支部						
15	7	19	日本化学会北海道支部夏季研究発表会共催	北見	118	210
16	1	23	第4回北海道支部講演会、日本I社 [®] -学会共催	札幌	2	40
16	2	3	第4回北海道支部研究発表会、日本I社 [®] -学会共催	札幌	14	45
東北支部						
15	11	7	第23回東北支部講演会・懇親会	岩手	3	142
		8	見学会(東北電力・盛岡駅西口熱供給センターほか)			13
東海支部						
15	8	4	大学院生の製油所インターンシップ研修 (コスモ石油・四日市製油所)	四日市		1
15	8	18	大学院生の製油所インターンシップ研修 (ジャパンエナジー・知多製油所)	知多		1
15	8	25	大学院生の製油所インターンシップ研修 (出光興産・愛知製油所)	知多		2
15	8	25	大学院生の製油所インターンシップ研修 (昭和四日市石油・四日市製油所)	四日市		2
関西支部						
15	6	24	第11回関西支部学生企業見学会 (関西電力・南港発電所)	大阪		23
15	12	5	第12回関西支部研究発表会(日本I社 [®] -学会共催)	京都	17ホ [®] ｽ13	58
16	2	3	第10回関西支部セミナー	大阪	3	23
中国・四国支部						
15	11	14	第24回中国・四国支部講演会・懇親会	坂出	5	45
16	2	6	第8回中国・四国支部技術交流会	周南	7	61
九州・沖縄支部						
15	12	19	第2回九州・沖縄支部講演会	鹿児島	3	28
16	3	18	九州・沖縄支部 / JPIJS九州地区見学会 (佐賀県立九州シンクロトロン光応用研究施設)	鳥栖		8

(2) 広報活動

- a) 12月に英文ホームページを開設し、さらに内容の拡充を行った。
 b) 講演会、研究発表会等の学会活動を報道各社への紹介及び広告拡大の検討を行った。

(3) 会員拡大キャンペーン活動

10月1日～12月26日の期間会員入会特別キャンペーンを実施した。

(4) ジュニア・ソサイアティ (JPIJS) の活動

- a) 5月21日(水)開催の、第52回研究発表会に併せて、第8回ポスターセッションを開催。参加18件のうちから投票により、ベストポスター賞(東工大、角 茂氏)、ベストデザイン賞(上智大、永田将人氏)をそれぞれ選出、表彰を行った。
 b) ペトロテック各号にJS便りを掲載した。
 c) その他全国において次表の活動をした。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道・東北地区						
16	1	16	講演会「二酸化炭素の回収と利用」	仙台	2	15
16	3	19	講演会「ソルボサーマル反応による材料合成」	札幌	1	17
関東地区						
15	4	23	見学会「(独)産業技術総合研究所 つくばセンター」	つくば		16
15	11	25	見学会「東燃ゼネラル石油(株)川崎工場」	川崎		14
関西地区						
15	11	18	宿泊セミナー「スーパークリーン燃料創製への挑戦」	芦屋	3	26
九州地区						
15	10	28	講演会「学生の研究に対する意識向上のための講演会」	箱崎		25
16	3	18	見学会「佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター」	鳥栖		7

7. 学術刊行部門

(1) 一般誌(ペトロテック月刊)を発行し、会員に配布したほか、一部外部に頒布した。

1) 各月の主な内容は次のとおりである。

	15年										16年			合計 件数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
時評・会長あいさつ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
座談会	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	10
一般総説・資料	9	10	8	10	10	11	10	8	10	11	13	9	119	
分析・評価技術入門	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3	
世界の石油田・大ガス田	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	
アルコールの楽しみ方	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10	
これも私の生きる道	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
私事白書	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
辛口放談	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
英語酒飲み話2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	

PECだより	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
JPIJSだより	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
各世代に聞く	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
随想	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
今月の一口メモ	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
新刊紹介・書評	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	5
統計	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	1	1	24
全頁数	84	88	86	98	88	86	96	92	94	96	92	82	1082

2) 特集記事を以下のとおり掲載した。

平成15年5月号「次世代合成燃料油の展望」、6月号「次世代合成燃料油の展望 - より高効率・高収率に挑む日本のGTL研究 -」、7月号「高分子の劣化」、8月号「バイオ技術を基盤としたポリマー製造技術」、9月号「水素製造技術の現状と課題」、10月号「廃油のリサイクル」、11月号「環境対応型塗料の動向」、12月号「機能性繊維」、平成16年1月号「プラスチックのリサイクル技術」、2月号「環境分野における光触媒反応」、3月号「ハロゲンの処理とリサイクル技術」

3) その他毎月、国内・海外の最近のニュース、解説記事、学会活動を報告する「学会の窓」を掲載した。また、弔辞、トピックス、論文誌掲載論文要旨などを適宜掲載した。

(2) 論文誌(隔月刊)を発行し、維持会員(502部)、公共会員(34部)および普通会員・学生会員中購読希望者(336部)に配布したほか、外部に各号86部を頒布し、国内に50部、海外に76部を寄贈している(平成16年3月末日現在)。平成15年度の掲載内容は次のとおりである。

巻数	46巻				47巻		合計
	3	4	5	6	1	2	
号数	3	4	5	6	1	2	6
総合論文	1	-	1	1	1	1	5
一般論文	5	7	6	2	6	7	33
ノート	-	1	2	5	-	1	9
技術報告	2	-	-	1	2	-	5
レター	-	-	-	-	1	1	2
投書	-	-	-	-	-	-	-
件数合計	8	8	9	9	10	10	54
全頁数	59	65	62	58	65	78	387

(3) 石油学会創立45周年事業の一環として単行本『サルファーフリー燃料油』の刊行に着手した。(平成16年7月初旬刊行予定)

8. 研究・技術交流部門

(1) 表彰

石油学会表彰規程ならびに野口記念賞表彰規程により、学会賞3件、論文賞2件、技術進歩賞2件、奨励賞3名、学会功績賞2名、野口記念奨励賞1名の授賞を決定した(詳細は報告事項1.参照)。なお、野口記念賞については該当なしと決定した。

(2) 教育委員会

大学生(院生を含む)、石油関連業者、一般市民等を対象として、石油に関する基礎知識、とりわけ実務面から理解を深め石油に対する興味を高めてもらうため、移動大学「石油関連セミナー」を石油連盟の支援の下に、全国で10大学・会場、講義数42コマを実施した。本年度はさいたま市および市川市の市民を対象とした講座も実施した。本年度の聴講延べ人数は約4,210人であった。

平成9年度から通算すると総コマ数340コマ、聴講延べ人数31,500人に達している。

(3) 国際交流

1) (財)国際石油交流センターからの受託業務として、産油国との現地交流として次の2事業を実施した。

第4回中東石油精製及び石油化学展示会と講演会(通称 PETROTECH2003)が平成15年9月29日から10月1日の3日間バーレンで開催され、石油学会から4名が講演を行った。

また、第13回日本-サウジ合同セミナーが平成15年12月14日(日)、15日(月)にKFUPM(King Fahd University of Petroleum & Minerals)で開催された。日本側から7件の発表を行い、サウジ、欧米からの発表を含め全部で15件となった。

産油国研究者の受入では、サウジアラビアのKFUPMから3名、KAAU(King Abdulaziz University)から1名、クウェートのKISRから2名の合計6名を大学、企業及び産業技術総合研究所に受け入れた。

(4) 受託業務

1) (財)石油産業活性化センターからの受託調査「次世代環境対応型石油燃料に関する調査」として、超クリーン燃料製造技術関連分野、ならびに環境対応型の高度精製技術関連分野に関する米国・欧州での短期・中期・長期エネルギー研究開発動向調査等を実施した。

2) (株)石油産業技術研究所から 国産乗用車の運転性試験、ディーゼル車の燃料供給システム調査について受託し、調査・試験を実施した。

3) (財)国際石油交流センターから「産油国石油精製技術等対策事業」として、産油国研究者の受入、産油国研究者との現地交流の調査・研究を実施した。

(5) 外部団体に対する協力

他学協会、その他の団体から事業の共催、協賛などの依頼を受けて積極的に協力した。

9. 部会部門

(1) 資源部会(地質、探鉱、開発、生産、環境)

1) 平成15年6月20日(金)に資源講演会「石油産業の新潮流と環境ビジネス」を開催した。

2) 平成15年11月17日(月)、18日(火)に開催された「第33回石油・石油化学討論会」において「石油・天然ガスの開発」のセッションを企画し、協力した。

(2) 精製部会(プロセス、製油、環境)

1) 平成15年10月17日(金)に精製講演会「環境対応型石油産業への脱皮」を企画し、実施した。

2) 平成16年2月13日(金)に第29回精製パネル討論会「SU、SD時の環境対策と工程短縮・H₂S、硫黄回収、排水処理、排煙脱硫・改質装置」を企画し、実施した。

3) 第28回精製パネル討論会会議録(平成15年2月13日(木)開催)を発行した。

4) 平成15年7月11日(金)に佐賀大学海洋エネルギー研究センターの見学を実施した。

(3) 石油化学部会(ケミカルプロダクト、反応・分離、バイオテクノロジー、触媒、環境)

1) 平成15年11月17日(月)、18日(火)に開催された「第33回石油・石油化学討論会」に

において以下のセッションを企画し、協力した。

* 石油・石油化学における新しい触媒技術

* 石油・石油化学産業とバイオ技術

* 反応分離

* ケミカルズ合成技術の新展開

* ポリマーオリゴメリゼーション

2) 平成 15 年 6 月 30 日(月)に反応分離シンポジウム「実用に近づく膜反応分離技術を展望する」を企画し、実施した。

3) 平成 15 年 10 月 2 日(木)に触媒シンポジウム「石油 / 石油化学の未来を担うキーテクノロジー - 触媒技術からの視点 - 」を企画し、実施した。

4) 次のテーマで専門の講師を招き、勉強会を実施した。

* 酸化触媒の最近の研究開発動向 (石井康敬氏・関西大)

* バイオマスを利用した生物工学的エネルギー変換 (天尾 豊氏・大分大)

* バイオプロセス開発に向けた取り組み (杉森大助氏・福井高専)

* メタン分解によるカーボンナノチューブ製造触媒の開発とその機構 (竹中 壮氏・東工大)

(4) 製品部会 (分析、試験、製品開発、環境)

1) 平成 15 年 12 月 1 日(月)、2 日(火)に「石油製品討論会 (次世代の環境調和型石油製品の開発動向とこれに対応する評価技術)」を企画し、実施した。

2) ガソリン分科会

a) (株)石油産業技術研究所の依頼により、国産乗用車の運転性試験を実施した。

b) CFRオクタン価のリサーチ法およびモーター法JIS規格改訂作業に協力した。

3) 燃料油分科会

a) (株)石油産業技術研究所の依頼によりディーゼル車の燃料供給システム調査を行った。

b) 第14回セタン価照合試験を行った。

c) JIS規格CFRセタン価試験方法の改訂作業に協力した。

4) 潤滑油分科会

a) エンジン汚れ評価法のJPI規格普及のため、ワークショップおよび第30回レイティングシンポジウムを開催した。

b) 自動車用ギヤ歯面損傷の評価に関する第2回レイティングシンポジウムを実施した。

c) JPI-5S-41-2004 [エンジン油蒸発性試験方法(NOACK法)] を改訂した。

d) JPI-5S-42-2004 [エンジン油低温粘度(MRV法)試験方法] を改訂した。

e) JPI-5S-29-88 [潤滑油せん断安定度試験方法] の見直し作業を行った。

5) アスファルト分科会

SHRP (新道路研究計画) バインダー試験方法について検討を行った。

6) 絶縁油分科会

a) 平成 14 年 6 月 13 日(金)に「第 23 回絶縁油研究発表会」を企画し、実施した。

b) 電気特性測定方法のJISとIECの試験装置の違いについて検討を行った。

c) 絶縁油の劣化と電気特性の低下に関し、メカニズム、測定法等の検討を行った。

d) 小型変圧器絶縁油保守管理指針を作成するための調査を行った。

7) 試験分析分科会

a) JPI-5S-65-2004 [石油製品 - 炭素分, 水素分及び窒素分試験方法] を制定した。

- b) JPI-5S-23-84 [エンジン油の軽油希釈率試験方法] の見直し作業を行った。
- c) JPI-5S-24-84 [エンジン油のガソリン希釈率試験方法] の見直し作業を行った。
- d) 石油製品中の残留炭素分試験方法について検討を行った。
- e) 石油製品中の水分試験方法について検討を行った。
- f) アニン点照合試験を実施した。

(5) 装置部会 (装置、機器、その他付帯設備、配管、材料 (腐食防食、強度)、計装、制御、電気、保全、安全、環境)

(5-1) 装置委員会

1) 平成 15 年 12 月 11 日(木)、12 日(金)に「第 34 回装置研究討論会 (設備の信頼性と最適コストの追求)」を企画し、実施した。

2) 機器分科会

a) 機器分科会関係規格の次の規格見直しの検討を行った。

- * JPI-7S-8-96 [塔類プラットホーム及びラダー]
- * JPI-7R-35-96 [スカートを有する塔そう類の強度計算]
- * JPI-7R-52-96 [横置容器サドル周り強度計算]
- * JPI-7R-53-96 [横置容器サドル]
- * JPI-7S-80-94 [縦形容器用リフティングラグ]

b) 回転機専門委員会にて次の活動を実施した。

- * 「遠心ポンプのユーザー規格比較検討調査結果について (信頼性と経済性の調和への提言)」をペトロテック Vol.26、No.5 に掲載し、詳細資料は「遠心ポンプのユーザー規格調査検討結果資料」として平成 15 年 4 月 22 日に発行した。
- * 「圧縮機のユーザー規格比較検討調査」を実施した。
- * 「ポンプ製作検査規格調査検討」を実施した。
- * 平成 15 年 9 月 19 日(金)に第 3 回 回転機研究討論会を企画し、実施した。

3) 配管分科会

配管基準専門委員会、バルブ専門委員会、フランジ専門委員会、ガスケット専門委員会、管及び管継手専門委員会、バルブ・フランジ圧力温度基準統合WGが配管分科会の下部組織とし、次の規格類の制定・改訂審議を行った。

- * JPI-7R-91-03 [配管用非石綿ガスケットの使用指針] (平成 15 年 7 月 4 日制定)
- * JPI-7S-15-99 [石油工業用フランジ]
- * JPI-7S-41-98 [配管用うず巻形ガスケット]
- * JPI-7S-67-00 [石油工業用バルブの基盤規格]
- * JPI-7R-76-93 [バルブのユーザーガイド]
- * JPI-7S-77-02 [石油工業用プラントの配管基準]
- * JPI-7S-81-96 [配管用ガスケットの基準]

4) 設備保全分科会

- a) 移動設備技術専門委員会を平成 16 年 2 月 5 日(木)、6 日(金)に、九州石油(株)大分製油所、新日本製鐵(株)大分製鐵所の見学を行い、配管肉厚測定をテーマとした各社事例紹介、意見交換を行った。
- b) 平成 15 年 9 月 12 日(金)に第 16 回設備保全分科会シンポジウム (連続触媒再生式改質装置) を実施した。

- c) 日本学術振興会主催の先導的研究委員会(化学プラントのリスクベース保全技術)に委員として4名派遣した。

5) 計装分科会

- a) フィールドバスをテーマに、「海外でのフィールドバスの実施事例紹介(東洋エンジニアリング・富田氏)」、「アンケート(フィールドバスは何故国内で採用されないか)結果に基づく勉強会(フィールドバス協会)」の勉強会を実施した。また、平成15年11月20日(木)に、早稲田大学理工学部総合研究センター産業用オープンネットワーク・ラボラトリー「フィールドバスのデモ」の見学会を実施した。
- b) 平成16年3月4日(木)に第21回計装研究討論会を開催した。
- c) 安全計装システム設計資料の作成を実施他。

6) 電気分科会

- a) 電気維持規格分科会から提示された「変圧器」、「電力ケーブル」のアンケート調査を実施し、とりまとめを行った。
- b) 地絡保護回路(高圧設備に係るQ&A集作成)の作成を実施した。
- c) 平成15年11月7日(金)に新東京空港公団の電気設備の見学会を実施した。
- d) 平成16年2月19日(木)に第4回電気研究討論会「ケーブルのトラブルと運転中検査技術」を実施した。
- e) 勉強会とし「防爆Q&A」、「ETAPを中心とした最新のエンジニアリングツール」の講演を実施した。

7) 保安分科会

「リスク・コミュニケーション・ガイドライン」作成作業を実施。

(5-2) 設備維持規格委員会

配管・設備維持規格合同分科会、電気維持規格分科会、計装維持規格分科会、回転機維持規格分科会を下部組織として活動し、次の規格案の制定、見直しを実施した。

- * JPI-8S-1-02 [配管維持規格]の見直し審議を実施した。
- * JPI-8S-2-03 [設備維持規格]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-11-03 [防食管理]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-12-03 [劣化損傷の評価と対応]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-13-03 [検査技術]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-14-02 [耐圧気密試験]の追補を平成15年12月16日に石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-15-02 [フランジ・ボルトの締付管理]の追補を平成15年12月16日に石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-16-03 [溶接補修]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * JPI-8R-17-03 [ホットスタート]を平成15年7月4日制定し、平成15年12月16日に追補を石油学会HP上で公開した。
- * [電気設備維持規格]の制定審議を実施した。
- * [計装設備維持規格]の制定審議を実施した。
- * [回転機設備維持規格]の制定審議を実施した。

(6) 経営情報部会(経済、統計、経営、OR、情報、システム、環境)

1) 下記のWGを設け、調査・検討を行った。

a) 「石油産業における情報インフラの調査」

石油会社の様々な業務を、本社は10領域に、製油所は6領域に大別したアンケート項目を作成し、石油会社本社および製油所にそれぞれアンケートを実施した。本社系は16社中11社、製油所系は30製油所中26製油所から回答が得られ、これらアンケートの集計および考察を行った。

b) 「石油産業におけるセキュリティの現状調査とリスクマネジメントの考察」

ソーシャルエンジニアリングの事例調査および対応策を検討した。また個人情報保護法に対応した情報セキュリティ保険の調査およびリスクマネジメントシナリオを作成し、被害額のシミュレーションを行った。

2) 平成16年3月10日(水)に平成15年度に活動を行った上記2WGの活動報告会を実施(公開)した。

3) 上記、報告会に併せて次の部会招待講演を企画し、実施した。

「サイバービジネスのサクセス形態」

早稲田大学大学院情報生産システム研究科 教授 石野 福弥氏

(7) 新エネルギー部会(エネルギー、地球環境問題)

1) 平成16年2月13日(金)に名称を「新エネルギー部会」と改めた。

2) 平成16年2月13日(金)に「水素・燃料電池分科会準備委員会」を発足させた。

3) 平成16年4月16日(金)に「新エネルギー部会講演会(地球温暖化防止に向けたエネルギー利用多様化への取り組み-分散型電源・コージェネ技術の進展-)」を企画した。

10. 認証部門

(1) 溶接士の認定事業

1) 本年度の新規認定者数は1,747名で、現在までの累計認定者数は127,435名である。

2) JPI認定溶接士の溶接功労賞表彰章は北陸地区から2名が表彰された。

(2) 標準物質の認定事業

本年度の認定数は次のとおりである。

硫黄分	1,831
窒素分	178
ニッケル・バナジウム分	50
FIA用	31
軽油硫黄分	509
標準ガソリン	68
流動点	19
合計	2,686

(3) 設備維持管理士認定事業

1) 設備維持規格の講習会を平成16年1月23日(金)に東京、平成16年1月30日(金)に大阪で実施した。

2) 設備維持管理士認定試験を平成16年2月29日(日)に東京及び大阪にて実施した。その結果、設備維持管理士(配管・設備)として191名を認定した。